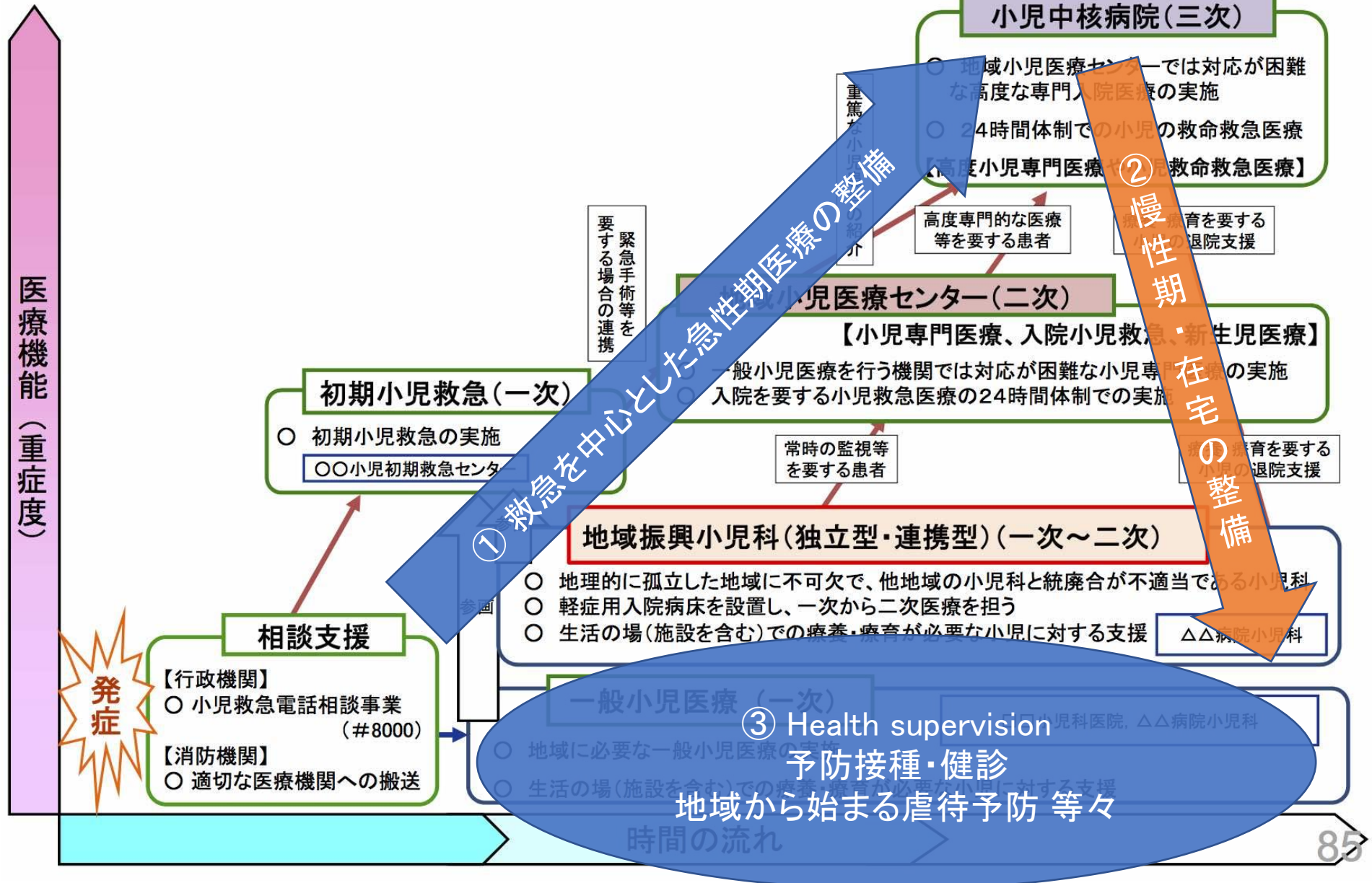


# 新たな小児医療の体制のイメージ



# 診療報酬の歴史を振り返って見えてきた 小児科全体として対応すべき課題

1. 小児医療のパラダイムシフトによる  
診療報酬で対応すべき領域の変化
2. 行政で整備した数々の手段  
小児科医の理解および活用不足
3. 医学的知識の進歩に付いて行くだけでなく、  
医療・福祉・教育の制度にも精通する必要性  
それを指導する体制作り

# 診療報酬改定の目的

診療報酬改定によって

- 患者の診療の質が高まること
- 医療従事者の労働環境が改善されること
- 医療が将来を見据えた方向に誘導されること
- 医療費が効率的に活用されること

などが期待されている

# 診療報酬改定要望のポイント

- 未収載／既収載
- 基本診療料 vs 特掲診療料
  
- 要望の根拠・有効性
- 普及性(認められるとどんな変化が起こると予想されるか)
- 技術の成熟度・難易度(専門性)
- 安全性(副作用等のリスクの内容と頻度)
- 見直しに伴う影響(財源、他の項目など)

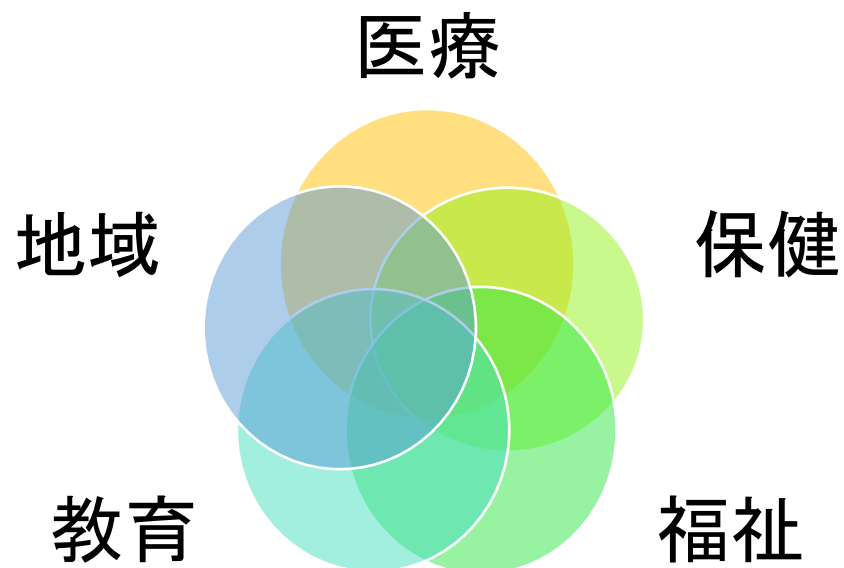
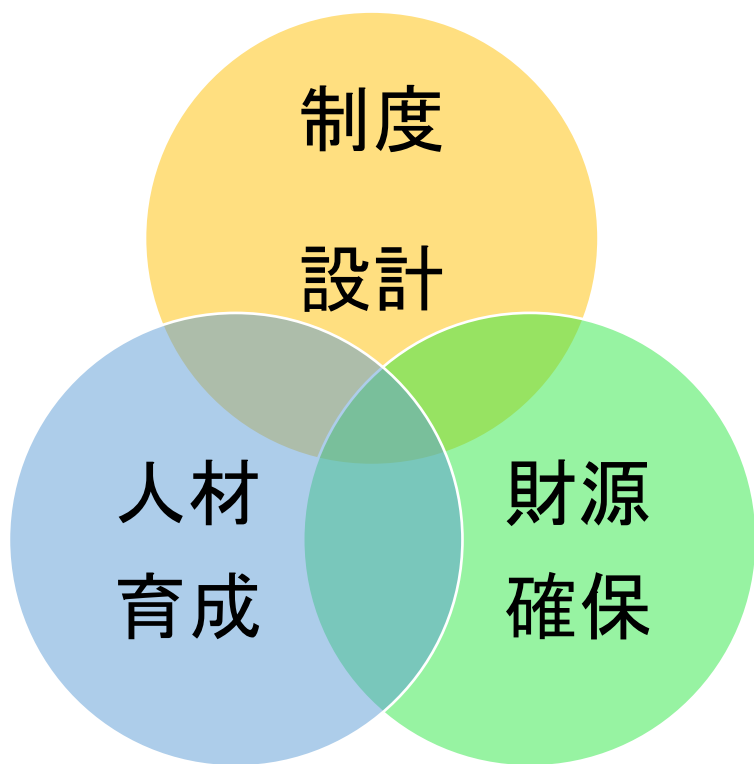
# 診療報酬改定要望のポイント

- 未収載／既収載
- 基本診療料 vs 特掲診療料
- **要望の根拠・有効性**
  - 普及性(認められるとどんな変化が起こると予想されるか)
  - 技術の成熟度・難易度(専門性)
  - 安全性(副作用等のリスクの内容と頻度)
  - 見直しに伴う影響(財源、他の項目など)

# 今日の内容

- 平成30年度診療報酬改定の概要
- 各領域から診療報酬改定に伴い、どうしたら患者にとって「**有益**」になるのか検討
  - 入院・急性期
  - 外来
  - 移行期
  - 障害児者
  - 在宅医療

# 今日の議論を考える上で



# 新たな小児医療の体制のイメージ

医療機能 (重症度)

